

札幌の冬の暮らしをみんなで 考える市民ワークショップ

情報共有ノート

2月28日(土)開催

このノートは、ワークショップに向けて事前の情報共有のための資料です。当日の対話を深めるための「ヒント」をまとめておりますので、事前にお目通しいただけますと幸いです。

当日は、ここに書かれていないことでも、ご自身の経験や気づいたことを自由にご発言いただいても構いません。

無断転載・複製などをご遠慮ください。

使い方



STEP 1

①情報を見る



STEP 2

②考えてみる



STEP 3

③対話に活かす

札幌の冬、こんな経験ありませんか？

除雪車が家の前に
雪を置いていく…

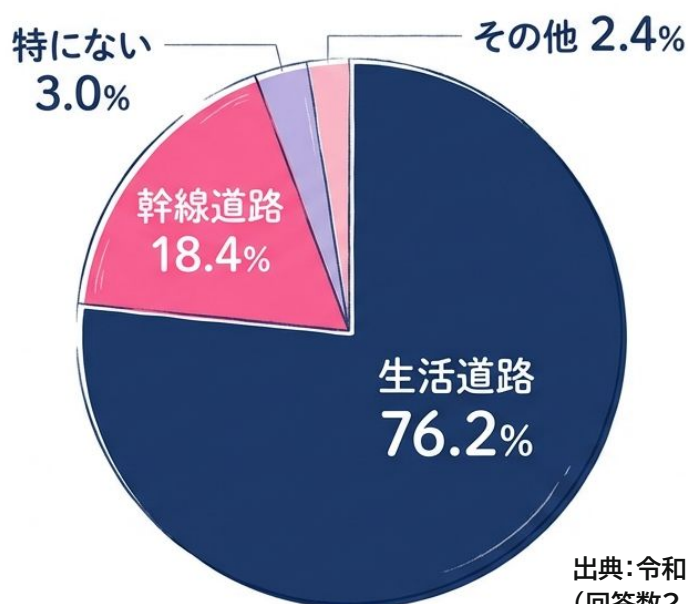
もう雪を捨てる
場所がない…

大きな通りに比べて、
家の前の道はずいぶん
雪が残っている…

冬景色はきれい。
でも毎日の移動は大変…

皆さまが感じている「冬の暮らしの不便さ」が議論の出発点になります。

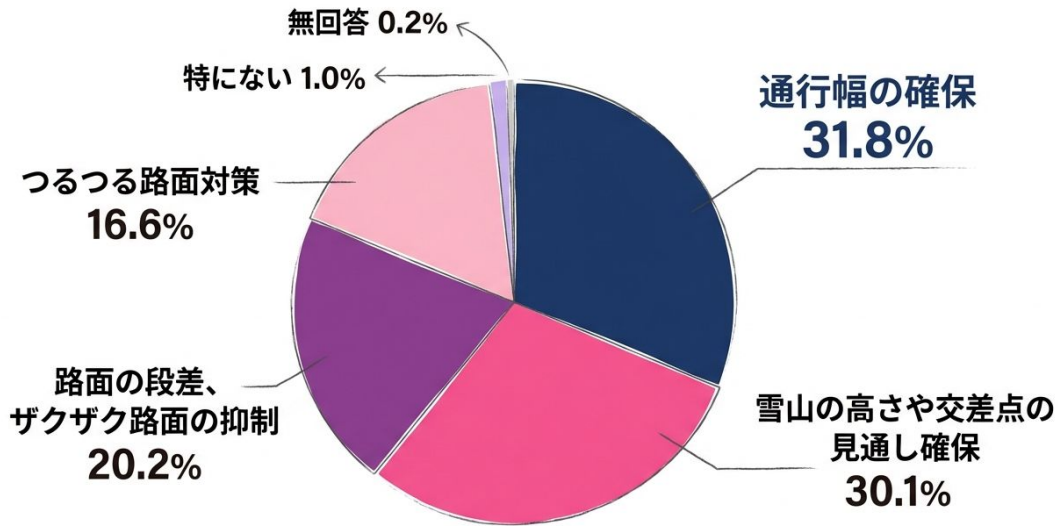
特に、除排雪に力を入れてほしい道路は？



出典：令和7年度第1回市民意識調査(札幌市)
(回答数2,488件)

市民へのアンケートでは、生活に身近な生活道路へのご要望が多いです。

冬期の生活道路で最も重視すべきだと思うものは？



出典：令和7年度第1回市民意識調査(札幌市)
(回答数2,488件)

市民が生活道路で重視すべきと思う項目は多岐に渡ります。

実は、他にもこんな課題があります



- 人口減少によって働き手が減っていく



- 市が使えるお金も減っていく



- 雪対策にかかるお金が高くなっている



- 気候変動は予測できない
- 先端技術は発展途上

詳しくは後のページで説明します。

当日は、こうした課題にどのように向き合っていくべきか考えてみましょう。

ワークショップの2つの目的

①

持続可能な雪対策の方向性を市民とともに考えます。特に生活道路の除排雪の在り方に着目します。

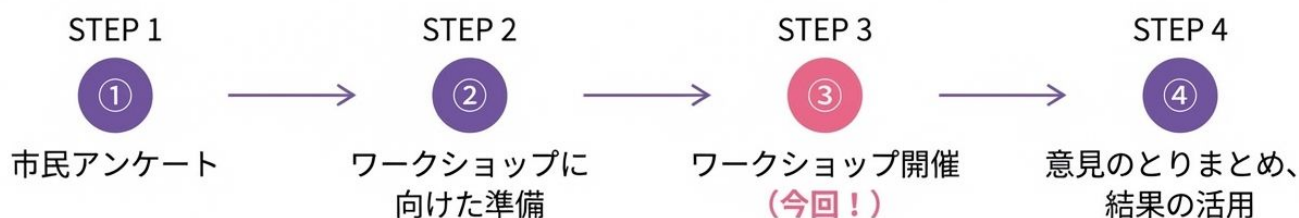
②

市民の意見を的確に把握し、市政に反映する仕組みづくりに活かします。

市民の皆さまの声を市の政策に反映していくために実施します。

これまでの意見聴取の取組

札幌市の抱える課題や市民アンケートの結果を踏まえて、話し合いに向けた準備を進めてきました。



頂戴したご意見は今後の雪対策の検討のために活用させていただきます。

プログラム(予定)

当日は3回のアンケートを実施しますのでご協力をお願いします。



市からの情報提供や参加者同士の対話を通じて、考えを深めていただきます。

「生活道路」の雪対策について、少しでも考えてみてください。

まずは率直に自分の考えに近いほうを選んでみてください。 ※選択肢はあくまで意見の例であり、正解はありません。

持続可能性

- A: 市の支出が増えても、多様な人材確保や雪対策を強化するのがよい
- B: 市の支出を抑えて、可能な範囲で雪対策を続けるのがよい

公平性

- A: 「排雪」はできるだけ広い範囲で実施されるのがよい
 - B: 「排雪」は地域の考え方や取組に合わせて差があってもよい
- ※「排雪」については P9、10参照

市民負担・協力

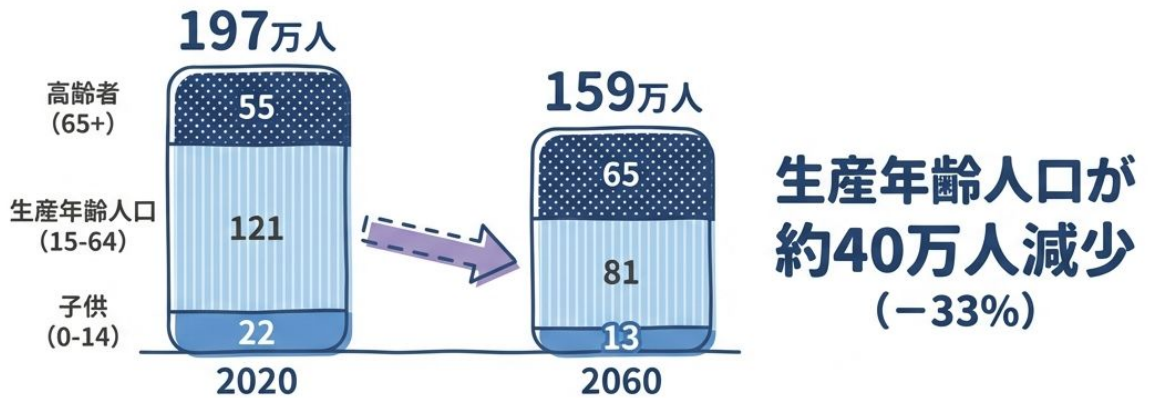
- A: 雪対策は行政が中心となって担うのがよい
- B: 行政に加えて、市民もできる範囲で協力することがあってもよい

移動のしやすさ

- A: 冬でもできるだけ快適に移動できる環境がよい
- B: 不便さは、道の譲り合いなどの思いやりや工夫で乗り切ってもよい

将来の人に頑張ってもらえばいいよね

人が減っているって本当？



現在働いている世代の人口は、今後30~40年で3人に1人がいなくなる計算です。

除雪のための人は増やせないのかな

雪を運ぶ人は、誰がやるの？

働く人の現実



50%
が50歳以上

若い担い手が不足している

人手不足の現実

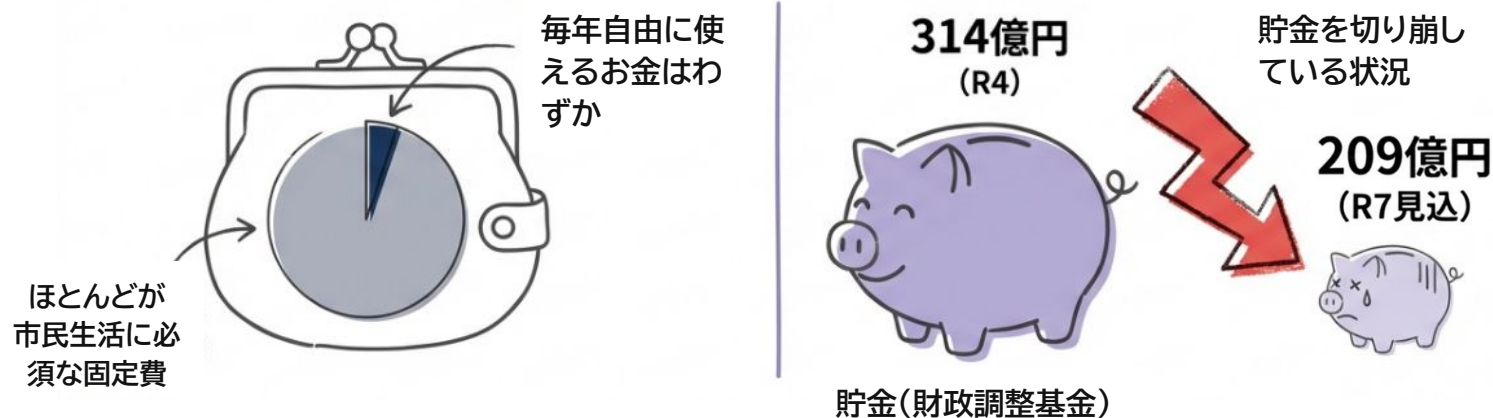


建設業では、1人の働き手を4つの会社を取り合っている状況。

担い手が限られており、単純に人を増やすことは難しい状況です。

札幌市ってたくさんお金あるんじゃないの

札幌市のおサイフ事情は？



収入以上に支出が増え、貯金を取り崩している状況です。

雪対策は大事なんだからお金をかけて

雪対策の予算、足りないの？



作業内容は変わらなくても、費用はふくらみ続けています。

今の時代、AIで何とかできるでしょ

技術でなんとかできる？



自動化などにはまだまだ時間がかかる



気候変動により気象の予測は難しい

短期での技術革新には限界があります。

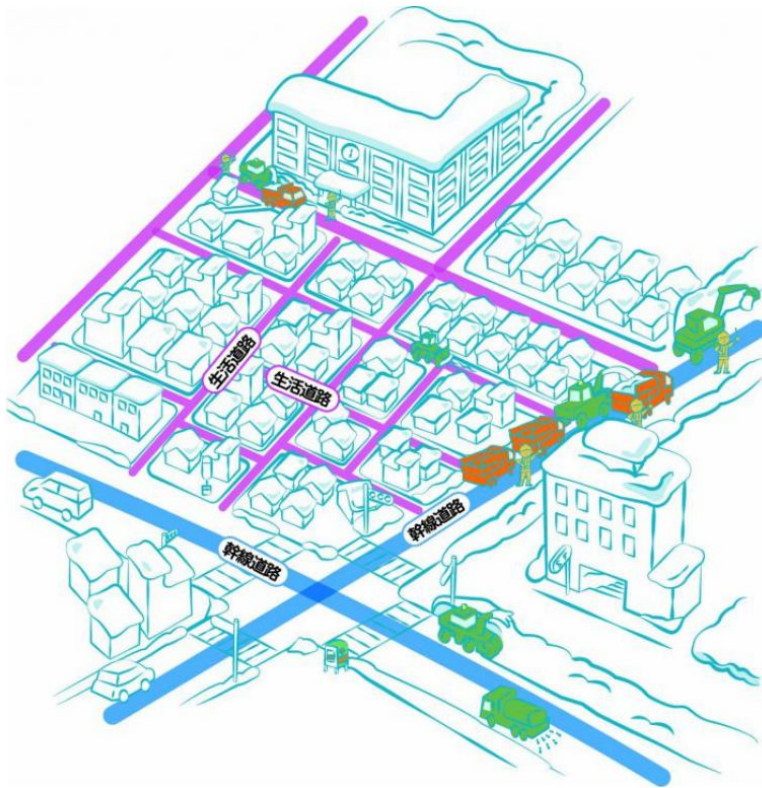
市役所が対応を考えるべきでは

これから、どうする？



市民の皆さまの意見を聞きながら、持続可能な雪対策の方向性を考えていく必要があります。

「幹線道路」と「生活道路」ってなに？



道路には大きく分けて2つの種類があります。



幹線道路

都市の骨格となる大きな道路
バス路線のように地域間や主要な地点を結び、交通量の多い道路



生活道路

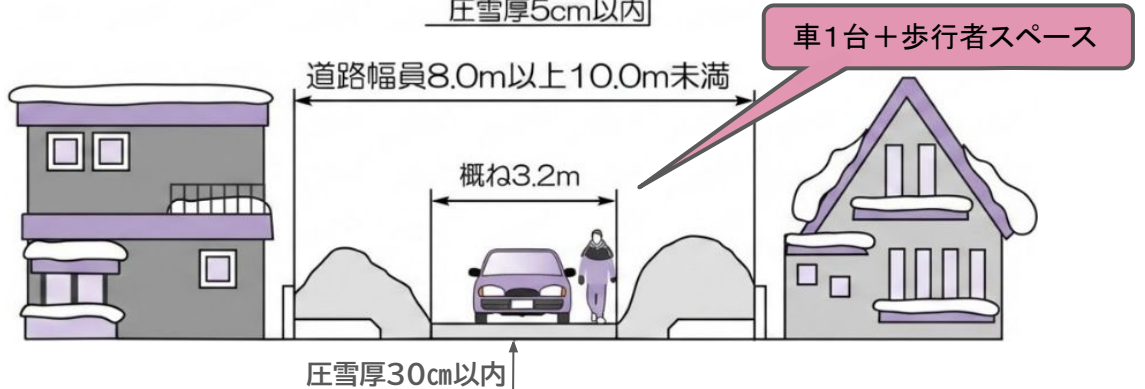
くらしがメインの道路
住宅地などから幹線道路に出るまでの間の道路

目指すべき冬の道路環境は？

幹線道路



生活道路



限られた機械や人手などにより効率的に作業を行うため、道路の役割に応じ除雪作業の目標が異なります。

「除雪」と「排雪」って何が違うの？

除雪



- ・新たに降った雪を左右にかき分ける
- ・デコボコ、ザクザクの路面を削る

排雪



- ・道路の雪山をトラックに積み込んで運ぶ

幹線道路の場合、
排雪は除雪の約**4倍**の人出、約**64倍**の費用がかかります。

排雪は多くの人手と機械、費用が必要なため、全ての道路で行うことができません。

左右に寄せるだけじゃなく、持って行ってくれたらいいのに

道路の雪を左右に寄せて除雪する理由

① 長い除雪距離

札幌市全域に雪が降った場合、
一晩で行う除雪の総距離はなんと

約5,400km

札幌～石垣島の往復距離に相当します。



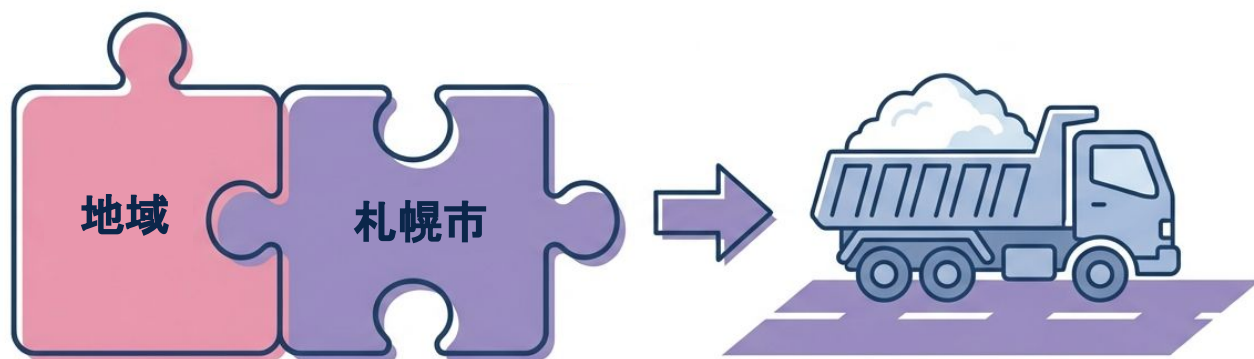
② 限られた時間

朝の通勤・通学の時間の渋滞を避けるためには、

深夜から早朝にかけて 作業を行う必要があります。

朝までに全ての道路の除雪作業を終わらせるには、雪をかき分けるので精一杯です。

パートナーシップ排雪制度とは？



地域と市がお金を出し合って、生活道路の雪を年1回運び出す仕組み。
1992年から30年以上続く制度です。

現在、生活道路全体の約7割(2,600km程度)で利用されており、
毎年1,200~1,300の地域(町内会などの団体)から申請があります。

生活道路の排雪は、地域と行政が協力して実施しています。

生活道路における除排雪の課題



①費用高騰

燃料費や人件費の上昇により、地域負担額を含めたパートナーシップ排雪の費用が増加



②不公平感

パートナーシップ排雪を利用する町内会では、町内会加入者と未加入者の利用料の負担の有無に差がある場合も



③通行環境

気温上昇による凸凹・ザクザク路面の発生などへの対応

これまでのやり方を維持するのは難しくなっています。



ぜひ、あなたの声を聞かせてください。

限られた予算と人手の中で、
「何を守り、何を変えるか」を話し合う時が来ています。

- お忙しい中、最後までお目通しいただき、本当にありがとうございます。
- 資料を通じて、ワークショップで話し合う内容をある程度イメージしていただけただけでしょうか。
- 表紙に記載しておりますとおり、この資料はご自身の雪対策に対する考えを深めていただくための「ヒント」になるように作成しています。
- 当日は、この資料に書かれていないことであっても、ご自身の思ったことや感じたことを自由にお話してください。